優秀賞

命のお守り

奈良県　奈良市立平城中学校　二学年　大久保　貴織

十四歳を迎える誕生日の数日前、私は生命保険に加入しました。父に連れられて近所にある生命保険の窓口へ出向き手続きを済ませました。私はそれまで生命保険がどういうものなのか、本当に必要なのかさえよくわかっていなかったのですが、加入手続きをきっかけに生命保険の大切さを知りました。

そもそも私が生命保険に加入する事になったきっかけは、父からの提案でした。

父は病院で勤務しておりケガや病気の患者さんと接する事は日常茶飯事です。その中で父は会計業務も担っているので患者さんから医療費を徴収します。一時的な通院に掛かる医療費、長期入院に掛かる医療費等、少額なものから高額なものまで様々あるそうです。

ある日、体調不良で救急搬送されてきた中学生がそのまま入院になり検査の結果大きな病気が判明したそうです。その親御さんの気持ちを察するに余りあるとの事でした。その事があってから父はもし私と弟が入院や手術をしたらどれくらいの費用が実際には掛かるのか、生活がどのように変わるのかというような話を母としていました。

しかし、奈良市では医療費助成制度があるので万が一治療費が高額でもそこまで困る事があるのだろうかと疑問に思ったので父に聞いてみました。

すると、病気によっては保険が適用されない治療方法や治療薬を使う場合があり、それをしないと命が助からない事もあると語気を強めた答えが返ってきました。それに万が一そのような病気になり入院が長期間にわたった場合、勤めに出ている父と母は仕事を休む事も増え収入が減る事になると。そしてそれらは医療費の助成ではまかなえない部分であり、それをカバーしていくのが生命保険なのだと知らされました。

また奈良市の医療費助成制度の対象者は高校生までです。私の対象期間も数年後に終了してしまいます。

そのような事もあり、父は母と相談して私と弟の生命保険の加入を決めたのでした。

生命保険には様々なプランの商品があり、保障内容を手厚くすればそれに比例するように掛け金も高くなります。父は一生涯において保障が続く内容のプランを選んでくれました。加入するタイミングは年齢が若ければ若いほど少しでも掛け金が安く済むそうです。だから誕生日を迎えるぎりぎり手前で

手続きをした事にも納得できました。

手続きが終わり窓口から帰る時、なんとも言えない安心感がありました。目に見えて何かが変わったわけではありませんが何か大きなものに守られているような感じがしました。

父は、

「将来もっと大人になったら保障内容もその時の自分に見合った内容に変更したらいいよ。まぁ保険を使う事なく健康なままが一番いいんやけど、これから生きていく為のお守りやと思っといたらいいよ。あっ、ほんでゆくゆくは自分で掛け金払ってな（笑）」

と意地悪そうに笑いながら私に話しかけました。

普段健康に生活している中ではピンとこないケガや病気ですが、いつどこで自分自身に起こるかわかりません。病気にならないように規則正しい生活を心がけるのは勿論の事です。しかし、もしもそうなってしまった時少しでも治療費や生活費として手助けをしてくれる「命のお守り」として生命保険はとても大切な心強い価値のあるものなんだなと思いました。命のお守りを用意してくれた父と母に感謝しつつ、でもこのお守りを使う事なく元気に生活していけたらいいなと思いました。